

島根県の地震

令和元（2019）年8月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

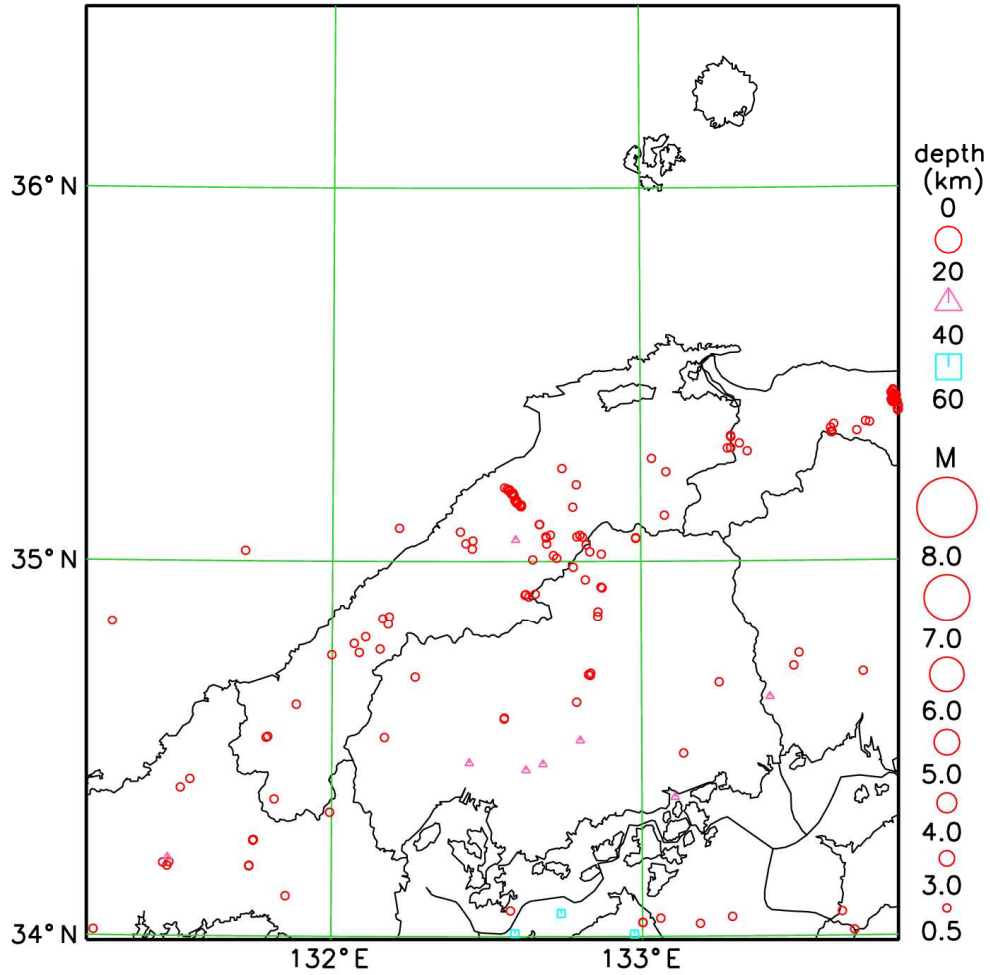
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2019年8月1日～31日

2019 08 01 00:00 -- 2019 08 31 24:00

N=177

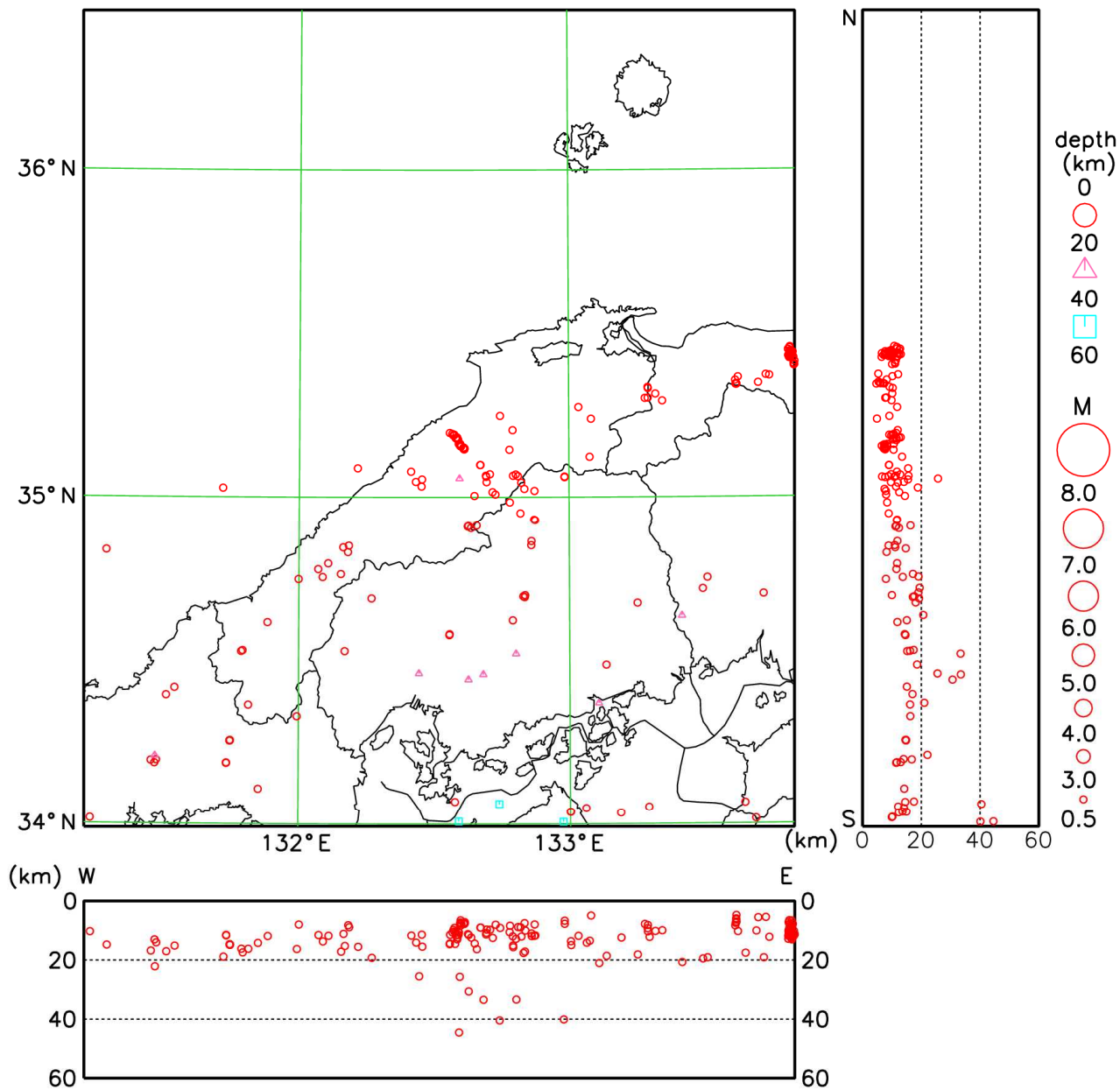


[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は177回（7月は235回）でした。
また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした。

[断面図]

2019 08 01 00:00 -- 2019 08 31 24:00



「異常震域」について

震源が非常に深い場合、震源の真上ではほとんど揺れないのに、震源から遠く離れた場所で揺れを感じる場合があります。この現象は、「異常震域」という名称で知られています。原因は、地球内部の岩盤の性質の違いによるものです。

2019年7月28日03時31分に三重県南東沖で発生した地震（深さ393km、マグニチュード6.6、最大震度4）は、太平洋プレート内の深い場所で発生した深発地震です。地域別震度分布図（図1）を見ると震源に近い東海地方より、遠く離れた東北地方の揺れが大きかったことがわかります。

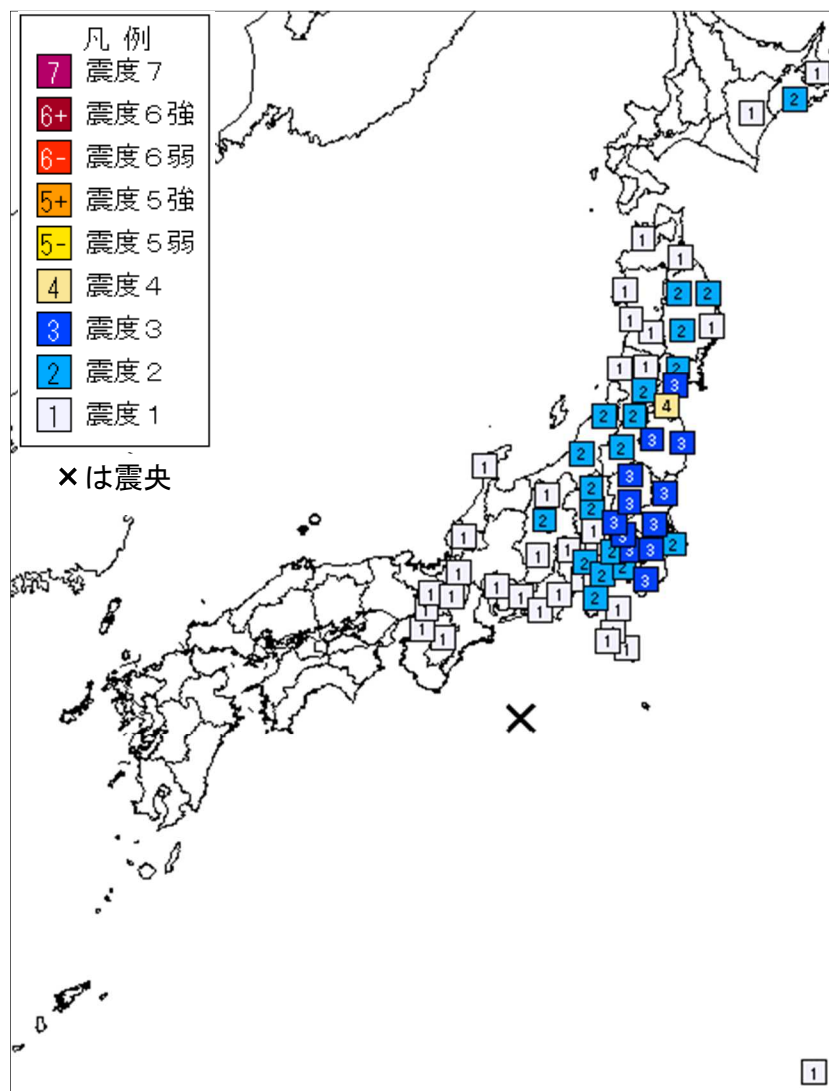


図1 地域震度分布図

図2を見ると、太平洋プレートなどの海洋プレートが、大陸プレートの地下深くまで沈み込んでいます。通常、地震波は震源から遠くなるほど減衰するものですが、この海洋プレートは地震波をあまり減衰せずに伝わりやすい性質を

持っています。このため、沈み込んだ海洋プレートのかなり深い場所で地震が発生すると（深発地震）、地震波は真上にはあまり伝わらないにもかかわらず、海洋プレートでは地震波はあまり減衰せずに伝わり揺れを大きく伝えます。

今回の地震も、震源直上（周辺）の地表での揺れ（震度）は小さいですが、遠く離れた東北地方の太平洋側でより大きな震度を観測しました。

震源から遠く離れていても、深い場所で発生した規模の大きい地震には、注意が必要です。

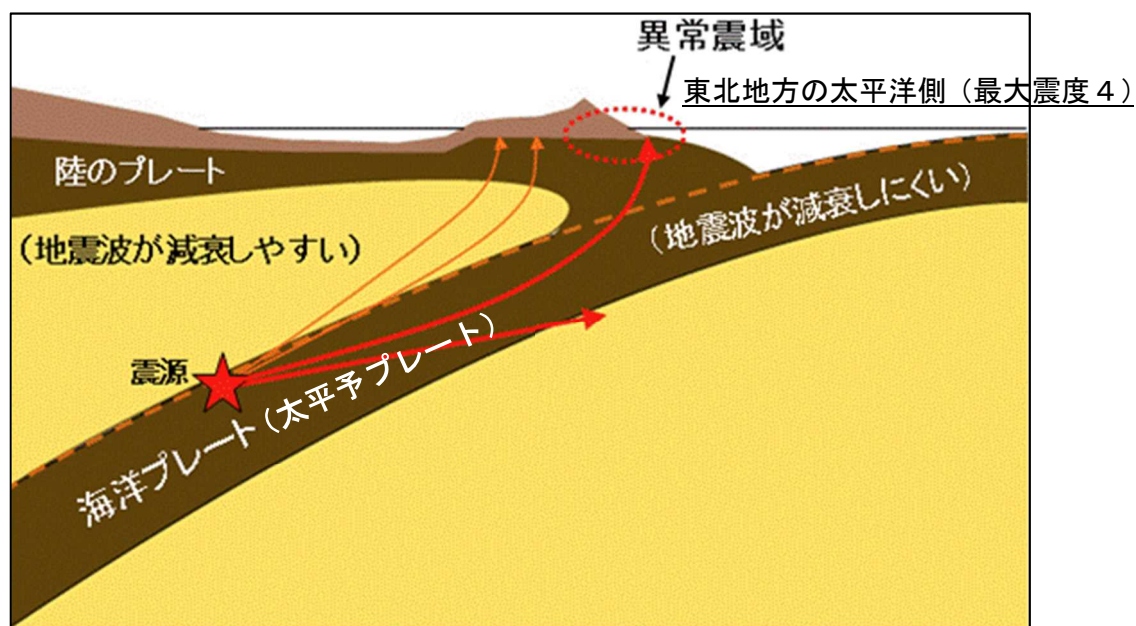


図2 プレートと異常震域の模式図

【参考】

- ・ 気象庁HP参照先
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/faq/faq27.html#12>
- ・ 平成19年7月16日 京都府沖の深発地震
<https://www.jishin.go.jp/main/chousa/07aug/p19.htm>